

# その表現、おかしくないですか？

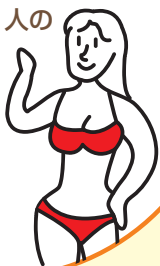
## 男女共同参画の視点でメディアを読み解く

情報化社会である現代では、テレビ・新聞・雑誌・広告・インターネットなどのメディアの情報が社会に与える影響は大きく、今後さらに拡大するものと予想されます。

しかし、毎日何気なく入ってくる情報の中には、性別による固定的な役割分担意識にとらわれた表現や、男女のいずれかに偏った表現、女性の性的な側面を強調した表現、女性に対する暴力を取り扱った内容や表現が見受けられます。

そこで、今回の特集では、男女共同参画の視点に立ってメディアの表現に着目し、情報を読み解き活用するには、メディアとどう付き合っていくと良いかを探っていきましょう。

商品や記事内容とは無関係に、女性の水着姿や身体の一部などを取り上げて、人の目を引くために飾り物的に扱っている



男性が上司、女性は部下で補助的な仕事やお茶入れなどの雑用をしている設定

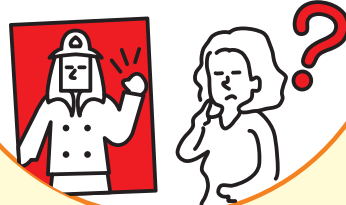


「男は仕事、女は家庭」という性別による固定的な役割分担を強調する表現



こんなことが  
気になりませんか？

広告などで、男女双方を対象とする内容であるのに、片方の性だけが対象となっていると誤解されるデザイン



「女子高生」「女社長」など、女性にだけ冠をつけて表現している



## Guest Message

ゲストメッセージ

### 愛されようとする前に 愛することが大切

#### 東 ちづるさん



戦争で傷ついた子どもたちの治療とリハビリを行っている「ドイツ平和村」にて

「嫌われることを恐れないで、自分らしく生きていこう」と思えるようになったのは最近ですね。だから子どもたちと話すときに、人に好かれようと無理しないでね、「あなたは、あなたなのよ。とても大切な存在」ということを伝えたい。」  
東さん自身、30代後半まで自分らしく生きてこれなかった経験があり、子どもたちの教育についての想いは深い。  
「私は高校3年間の記憶がほとんどないんです。解離性健忘症というのですが、親の期待に応えるために優等生になり、私ではない私を無自覚に生きてしまったらしいんです。だから、いい子に会おうと心配。親の期待に応えられなくなったときに、自分を攻める気持ちに苛まれたり、親が自分の方を向いてくれなくなるのではないかと不安になってしまっ。最近の少年犯罪にもみられるようですね。」  
「母親の期待に無自覚に応えていた」と言う東さんは、今までの自分と本来の自分

との狭間で苦しんでいた。そんなときに出会ったのが白血病の少年。  
「彼がとても爽やかで、泣きこも言わず白血球であることをテレビで告白したんです。その姿が、元気で明るくい子であつても心の中では悲鳴をあげている自分と重なったんです。なんで芸能界にいるんだろう？生きるってなに？愛ってなに？ということを考えていた時期に、その番組を見て何か行動しないと後悔すると思いましたが、骨髄バンクのボランティアを始めたのは、私自身がSOSを発信していたからかもしれません。活動の場は、本音で付き合える仲間がいて、とても居心地が良かった。活動を続けていくうちに、自分らしく生き直したいと思いはじめてカウンセリングを受けることになり、自分を変えることができました。」  
アダルト・チルドレン(※)であることに気付いたのは10年前。母親と共にカウンセリングを受けて、「なんとかしなきゃ」から

あづま ちづる

●プロフィール●

1960年広島県尾道市因島生まれ。会社員生活を経て芸能界へ。ドラマ、映画、舞台、司会、執筆など幅広く活躍。骨髄バンクやあしなが育英会、ドイツ平和村のボランティア活動を行っている。著書に「わたしを忘れないで～ドイツ平和村より」(ブックマン社)、「<私>はなぜカウンセリングを受けたのか」(マガジンハウス)他。毎週土曜「サタデースクランブル」(テレビ朝日)にレギュラー出演中

「なんとかなるさ」という考え方に変わり、ラクになったと穏やかな表情を浮かべる。  
「私たちは小さい頃から愛されなさい、いい子でいなさいと言われて育ちますよね。だから、愛した人には愛されないと幸せではないと思ひ込んでいます。でも、本来は愛されなくても愛する気持ちがあれば幸せなのです。その人が生きていられるだけで私は嬉しいというのが愛なのです。ボランティアは辛いし、腹が立つことがいっぱいあるけれど、それを含めてやりたいから面白いから続けているんです。」  
ボランティア活動を始めて16年。今や東さんのライフワークにもなっている。様々な立場の人たちと接してきた東さんが描く理想の社会とは……。「男女というよりも個々共同参画社会。病弱な方も障害者の方も、男性も女性も子どもも、すべての人が参画できる社会であってほしいです。自分を大切にできない人は、他者も大切にできません。人を傷つける人は自分を大切に生きていない人です。私たち大人は、子どもたちがその子らしく生きられるように見守ることが大事です。教育の現場では、何時間かかっても何年かかってもいいから、体罰は絶対にしないで言葉と真摯な姿勢で伝えるべきだと思います。」  
新しい「自分」に生まれ変わり、パートナーとともに充実した人生を送っている東さん。経験から湧き出る一つひとつの言葉が、心の芯まで響いた。

※アダルト・チルドレン(AC) 子ども時代の家族に何らかの問題(機能不全)があつて、子どもらしくのびのびと過ごすことができません。その結果大人になって生きづらさを感じている人たちのこと。